

出会い

No.90 2024. 4. 4

キリスト教委員会



上:「黒澤記念講堂と黒澤酉蔵像」(右:獣医保健看護学類 動物生命科学ユニット 宮庄 拓)

ご入学、おめでとうございます。酪農学園大学設立者の黒澤酉蔵先生は「出会いが人の一生を支配する」と仰っています。ここでの「出会い」を大切にして下さい。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、あなたの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」

(ヨハネによる福音書15章16節)



愛をもって真理を認識する (Iコリント書13章1-13節)

—— 真理探求の旅に踏み出す ——

宗教研主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室

小林 昭博

誠実な人たちによる経済取引

循環農学類統計学研究室

毛利 泰大

「出会い」

獣医学類3年 KGK書記

日高 健太

大学礼拝への招待

愛をもって真理を認識する（Iコリント書13章1-13節）

—— 真理探求の旅に踏み出す ——



宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

¹²なぜなら、今わたしたちは鏡を通して謎の状態で〔おぼろげなものを〕見ているが、そのときには顔と顔を合わせて〔はっきりと〕見るだろう。今わたしたちは部分的に認識している〔にすぎない〕が、そのときにはわたしが〔神によって〕完全に認識されたように、わたしたちも完全に認識するようになるだろう。（コリントの信徒への手紙一 13章12節 [私訳]）

愛の讃歌——Iコリント書13章

Iコリント書13章（1-13節）は「愛の讃歌」と呼ばれる有名な聖書箇所です。このテキストにおいて、パウロは愛とはどういうものであるのかを説き、愛こそが永遠に存続する最高最善のものであると声高らかに宣言しています。

愛の伴わない力の無意味さ

——Iコリント書1章1-3節

1-3節は人間の諸言語のみならず、天使の言葉が話す能力があったとしても、愛がなければ騒がしいだけであり、預言、秘儀、知識に通暁し、山を動かすほどの信仰があったとしても、愛がなければ無でしかなく、全財産を喜捨し、殉教の死を遂げようと、愛がなければ無益であると言っています。

このように1-3節は人間がどれほどの能力、信仰、知恵、知識を持ち、全財産と生命さえも差し出す行動ができたとしても、そこに愛がなければ、それらの力には何の意味もないと吐露しているのです。それほどまでにパウロは愛の偉大さを讃美するのです。

愛の属性

——Iコリント書13章4-7節

4-7節は愛とはどういうものであるのかという愛の属性が列挙されています。パウロは7種類の肯定命題と8種類の否定命題の合計

15の愛の属性を列挙しています。

このテキストにおいて愛の属性が語られるとき、名詞ではなく、動詞が使われています。つまり、パウロにとって、愛とは静的なものではなく、動的なものであり、したがって愛は常に行動として現れるものだということです。

愛の永遠性

——Iコリント書13章8-13節

8-13節はあらゆるものはやがて廃れるとも、愛は絶えることなく、永遠に存続すると語っています。パウロはギリシャのプラトン哲学からローマのストア哲学に受け継がれてきたイデア論に基づき、仮初めの世界である現世で人間が見ているものは部分的・限定的で不完全なものでしかなく、それがやがて到来する本来の世界である来世では全てが詳らかにになると語ります。

そして、そのうえで13節においてパウロは永遠に存続するのは「信仰・希望・愛」（信・望・愛）の三つであり、これらのうちで最も大いなるものは愛であると述べ、愛に最高の讃辞を贈っています。

不完全な知——鏡に映る謎

9-12節においてパウロは現世で人間が見ているものは部分的・限定的で不完全なものでしかないと述べ、12節ではその比喩として「鏡」を引き合いに出しています。原文のギリシャ語を直訳すると、「鏡を通して謎において

「見ている」となるのですが、私訳では「鏡を通して謎の状態で【おぼろげなものを】見ている」と翻訳しました。

現代のわたしたちがこの一文の意味を理解するには、古代の「鏡」について知る必要があります。現代のわたしたちにとって、「鏡」は——鏡映反転してはいますが——ありのままの姿をはっきりと映し出すものです。それに対して、古代の鏡は金属鏡であり、綺麗に磨き上げられた高級かつ新品の鏡を除くと、民衆が持っていた鏡は鍍などで劣化してしまっており、鏡が映し出すのはまさに「謎」のような「おぼろげなもの」でしかなかったのです。

パウロは人間が現世で知りうるのは「鏡」に映る「謎」のように部分的・限定的で不完全な知でしかないことを伝えることによって、現世で力や能力を誇る者に省察を促し、遜って生きるよう勧めているのです。これはソクラテスの「無知の知」につながる理解でもあります（Iコリント書8章2節）。

完全な知——顔と顔を合わせて

パウロは身近に世の終わりが迫っていると信じて生きていましたので、現世の不完全さが終末の来世の到来によって完全に置き換えられると考えていました。その思いの丈が12節の「そのときには顔と顔を合わせて【はっきりと】見るだろう」という期待と「そのときにはわたしが【神によって】完全に認識されたように、わたしたちも完全に認識するようになるだろう」という待望として立ち現れています。

ここでパウロは不完全な知が完全な知に置き換えられる喩えとして、「顔と顔を合わせて」という表現を用いています。これは「鏡を通して謎の状態で【おぼろげなものを】見ている」という比喩の反対の喩えです。原文のギリシャ語の *πρόσωπον πρὸς πρόσωπον* (プロソーボン・プロス・プロソーボン) は、英語に置き換えると、face to face となりますので、まさにはっきりと自分の眼前に全てが完全に明らかになるのが来世だとパウロは言っているのです。

このようなパウロの神学思想の背後には、

ユダヤ教の終末論とギリシャ哲学のアイデア論があり、本来の世界である「神の国＝アイデアの世界」にのみ真理が存在するとの考えを示しています。

愛をもって真理を認識する ——真理探求の旅に踏み出す

現代世界は新型コロナウイルスとの対峙から共存へとステージを移していますが、ここに至るまでには未知のウイルスの解明に向けた科学による不断の真理探求があったことが知られています。「真理」を意味するギリシャ語の *ἀλήθεια* (アレータイア) は隠されているものが明らかになるというのが原意です。ギリシャ哲学では、アイデアの世界に隠されていたものがこの世界に明らかになることを真理と呼び、アイデアの世界に存在する「完全な知」を目指して研究に専心することが古代ギリシャ以来の真理探求を生業とする「科学」(scientia) の使命であり、大学の存在理由でもあります。

新入生のみなさんもまた、本日から真理探求という本学の使命に与る協働者です。真理探求を遂行するには、困難を乗り越える厳しさや真剣さが確かに必要ではあるのですが、しかしそこで忘れてはならないのは、愛の讃歌が指し示す最も大いなる「愛」をもって、相互を支え合い続けることです。キリスト教主義大学・酪農学園大学に連なる研究者のひとりとして、みなさんも「信・望・愛」(信仰・希望・愛) を持ち続けつつ、真理探求の旅に踏み出してください。



ルーヴル美術館所蔵「古代エジプトの鏡」
(Wikipediaより転載)

誠実な人たちによる経済取引



循環農学類統計学研究室 毛利 泰大

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。さて、はれて卒業した後のことを話します。酪農学園大学に限らず大学を卒業し社会に出た方の多くが「もっと勉強しておけば良かった」と思うそうです。その中でも「経済学」は社会に出てからその必要性を感じる人が多いとか。おそらく働くことで、自分がある経済という環境が持つ性質や機能に興味を持つのだと思います。ここではそんな経済学とキリスト教、特に聖書との関わりについて書いてみたいと思います。

経済学には「開発経済学」という分野があります。主に経済発展の仕組みを明らかにすることが目的の分野です。開発途上国が研究対象となるケースが多いですが、もちろん先進国も対象となります。どうすれば経済成長を起こせるでしょうか？これは難しい問いです。わかっていることと、わかっていないことがあります。「これさえ実行すれば、必ず経済成長を起こすこ

とができる！」というような処方箋はないということはわかっています。他にもわかっていることがあります。それは「円滑な取引」です。取引が活発に行えることは経済成長にとって重要です。

「取引」は基本的な経済行動の一つです。皆さんもこれまで幾度となく「買い物」という形で取引を行ってきました。今では、インターネットで買い物をしたことがない人の方が少ないはずです。インターネットショッピングではほとんどの場合、買い手が先に支払って、その後商品が発送されます。「注文」をクリックするとき次のようなことを思ったことはないだろうか？「相手は本当に商品を送るだろうか？、入金したのに商品が届かないことはないだろうか？」と。実際そういうこともあります。買い手との長期的な関係などがない場合、売り手には商品をきちんと発送するという“誠実な行動”とは真逆の、“不誠実な行動”をする誘惑が存在します。インターネットショッピングに限らず、支払いの後、

商品を納入するという取引形態は珍しいものではありません。社会において不誠実な行動が横行すれば、円滑な取引は実現しません。結果として経済成長も加速しません。

なので不誠実な行動を制御することが求められます。そしてその方法は主に二つあると言えます。一つ目の方法は監視と罰則を用意することです。契約による厳密な定義と、確実な監視と罰則が用意されることで不誠実な行動は抑制されます。二つ目は売り手が、不誠実な行動をするという誘惑を律する内的な欲求を備えることです。不誠実な行動をやってはいけない、やりたくはないという人の欲求によっても制御可能です。

一つ目の方法と二つ目の方法とではどちらが円滑な取引を実現するための費用が低いでしょうか？答えは二つ目と言えるでしょう。一つ目の方法では不誠実な行動を明確に定義するための契約書が必要となりますし、それが守られているかどうか監視しなくてはなりません。そして違反があった場合は罰則を与えなければいけません。これは結構たいへんです。一方、売り手が誠実な人間であれば、膨大な契約書や監視は必要ありません。契約書を作り

チェックする手間や監視の時間を節約できます。

どうすれば社会において誠実な人を増やすことができるのでしょうか？ここに出てくるのが聖書です。聖書は多くの人が長い時間をかけ書き上げられました。そこには経済取引を円滑に進めるために重要な誠実な行動に関するメッセージも多くあります。聖書が広く読まれ親しまれることによって誠実に行動する人が増えれば、取引にかかる費用は低減していくと考えられます。情報化が進みデータの蓄積やAI手法などによって円滑な取引を実現するための費用はかなり低くなりましたが、今よりずっと昔では、取引を円滑に進めるためには誠実な人が多く必要でした。それは現在でも変わらないでしょう。なんだか当たり前のことを言っているようですが、取引を行う人同士が誠実な行動をする人であることはとても重要であり、円滑な取引の礎になっています。そして、そういった人が社会に一人でも多く存在する状態に寄与してきた聖書の役割もいまだに重要なのです。こんな視点で聖書を開いてみると違った発見があるかもしれませんよ。

「出 会 い」



獣医学類3年 KGK書記 日高 健太

新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんはどのようなキャンパスライフを思い浮かべているでしょうか。大学生活は、最先端の学び、多種多様な人との出会い、バイト、サークル、そして就活など、多くの経験ができる期間だと思います。以下、私が大学生活で紹介したいことを書きたいと思います。これからの大学生活の参考になれば幸いです。

時間の使い方

「パーキンソンの法則」という言葉を聞いたことはあるでしょうか？ 時間とお金は、あればあるほど費やしてしまう、といった人の性質を表したものです。夏休みの宿題を始業式間近で慌てて行うのも同じですね。「法則」とはよく言ったもので、私は何度抗おうとしても、その法則に当てはまる行動を繰り返してしまいます。試験前に慌てて勉強してしまいます。大学生活は長

いようであつという間です。大学での目的、すべきこと、したいことの優先順位を考えながら、計画を練ってみてください。その際に、所要時間を決めて行うのがお勧めです。例えばレポートの作成で、内容が100%の出来でなくても、とりあえず時間内に提出できる最低ラインまで完成させるようにします。また目標の設定は「レポートの提出」のように達成条件を明確にするほど、所要時間を定めやすく、継続するモチベーションに繋がります。私は時間の使い方が本当に苦手ですが、このように時間を決めることで少しずつ克服してきました。

人との出会い

酪農学園大学では、出身地も様々で、今まで出会ったことのない様な学生や先生方が沢山います。最初は関係性を作るのが大変だと思うので、サークルに所属するのがおすすめです。色々なサークルに見学に行ってみてください。他の学類の友達もできます。

また同学類の同期は、授業を乗り越えるために一番長く助け合う仲間になると思います。実習だと必然的に話す機会が多いので仲良くなるきっかけになります。私の場合では、定期試験勉強の時に同期の友達とよく勉強します。試験情報の洩れがないか確認しあえたり、互いに苦手な所を教え合うことがあります。

知ること

興味があるから学びたいと思っても、実際深く勉強していくと想像していたのと違うということは多々あります。好きだった分野が嫌いになることもあれば、より好きになることもあります。また新たな分野に触れることで、興味が出てくることもあります。何事にも知らないことには、興味すら出てきません。

大学では、授業の他に、研究室、講演会、サークルの勉強会など、学びの場が沢山あります。全く興味のない分野であっても、是非その分野を知る場に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。自分の興味の芽がそこに埋まっているかもしれません。

大学1年生では、専門分野以外の教養科目の履修がほとんどだと思います。

私は、教養科目の中で「キリスト教学」に特に興味を持ちました。高校では地理選択で何となく知っていた宗教の内の一つでしたが、大学の授業を通して、聖書の内容や聖書が日本の文化に与えている影響、クリスチャンの存在、救いと不条理について興味を持つようになりました。そこから1年生の12月に、聖書研究会に入部することになりました。

聖書研究会 (KGK) に入部

KGKとは、キリスト者学生会の略称です。聖書研究会の別名で呼んでいます。活動内容は、アイスブレイク、讚美歌、聖書研究を行います。終わった後はよく皆でご飯食べに行きます。アイスブレイクは、ボードゲームなどの遊びで親睦を深めます。讚美歌は神様を賛美する歌です。有名な讚美歌は、きよしこの夜やアメージンググレースなどがあります。聖書研究は、決められた聖書箇所を皆で読んで、内容について話し合います。聖書は歴史書として面白いだけでなく、世界の文化背景を知れたり、現在日本に生きる私たちの生活にも適応できることが多く書かれています。興味を持たれた方は、いつでも遊びに来てください。

大学礼拝への招待

酪農学園大学はキリスト教主義大学として、創立以来大学礼拝を大切にしてきました。大学礼拝は建学の精神である「三愛主義」（神を愛し、人を愛し、土を愛す）を経験する実学教育の場であり、授業期間中の毎週火曜日の2時限（午前10時40分～12時10分）は大学礼拝の時間に充てられており、学生、教職員が出席で



【クリスマス礼拝（クリスマスコンサート）】

きるよう、この時間には授業などが入らないように配慮されています。礼拝では讃美歌を歌い、聖書を読み、奨励（説教）を聞くスタイルを取っていますが、韓国のCCCの学生の特別礼拝と文化交流、ゴスペルクワイアのライブ、クラシック・コンサート、クリスマス礼拝での室内楽団や吹奏楽団の演奏といった多様なスタイルで礼拝を行なっています。新入生のみなさんには、1年間、毎週の礼拝に出席していただき、本学のキリスト教主義教育を経験することを通して、「三愛主義」の真の意味を知っていただきたいと願っています。積極的に出席してくださることを願いつつ、みなさんを大学礼拝にご招待いたします。



【韓国のCCCの学生たちとの礼拝後の交流】

あ が き

『出会い』90号（入学式号）をお届けします。新しい生活で心配なこともあり、戦争や地震の影響で不安な気持

ちも増しているかもしれません。大学礼拝で心落ち着ける時間を一緒に過ごすしてみてください。（A.K.）

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011 - 386 - 1111（代表）



酪農学園大学は、2020年度（公対）
日本高等教育評価機構による大学機関
別認証評価において大学評価基準に選
合していると認定されました。



（酪農学園大学公式サイト）